



寒椿（かんつばき）

YAH! ヤー! Vol. 20

今月の昭和の唄 ちあきなおみ 紅とんぼ

1.Jan.2021

2021年の幕開けに2020年の年頭所感をちょっと訂正・・・

世の中騒然としている、いや、ただただ騒々しいだけなのかもしれない。もしかすると、目立っては拙い本当に困ったことを、細々した不愉快な事や、少しばかり明るめの話題で、誰かが誤魔化そうとしているのかもしれない。この“目くらまし”結構効果があって、世間は当座こそ大騒ぎをするのだが、時間の経過をもって、なんだか面倒臭くなり、やがて忘れてしまう、というよりどうでもよくなってしまふ…それこそを待っているやからがきつと居るはずなのだ、どこかに…あの辺りに…。

“インフルエンザがこれまでのペースをはるかに超えて流行している”、ところで『豚コレラ』はどうした？『IR』が揺れている、さて、『桜問題』は散ったのか。事を整理してそれぞれ慎重に検討、評価、そして対応したいが、整理してくれるはずの機関がこれまた混乱している。せめて、予断を入れずに事実をなるべくシンプルなかたちで伝えて欲しいところだ。（2020年はインフルエンザ、それに代わって今年は…）

今月の“昭和”の唄

紅とんぼ 歌唱：ちあきなおみ

作詞：吉田 旺 作曲：船村 徹

空にしてって 酒も肴も 今日でお終い 店仕舞
五年ありがとう 楽しかったわ いろいろお世話になりました
しみりしないでよ ケンさん新宿駅裏 紅とんぼ
想いだしてね 時々は

いいのいいから ツケは帳消し みつぐ相手も いないもの
だけどもみなさん 飽きもしないで よくよく通ってくれました
唄ってよ騒いでよ しんちゃん 新宿駅裏 紅とんぼ
想いだしてね 時々は

だからほんとよ 故里へ帰るの 誰も貰っちゃ くないし
みんなありがとう うれしかったわ あふれてきちゃった思い出が
笑ってよ涕(な)かないで チーちゃん 新宿駅裏 紅とんぼ
想いだしてね 時々は

新宿駅西口から右に下った大ガード脇の飲み屋横丁が舞台であるのだろう。もう30年以上も大昔のことだが、ほぼ毎日通りがかった（そこに通っていたわけではない、まさに一角をかすめてその先の地を目指し、それから数時間の後終電間際に逆にその道筋を戻って行った）。

ある日のこと、勤めていた会社の先輩（小さな会社でとりあえずこの人が“社長”）にこの横丁の中の飲み屋に連れて行かれた。ほぼ満席（といってもせいぜい五、六人）で、“ママ”はすっかりおじさまになった“社長”を「坊やはこっち」とカウンター内の丸椅子に呼び込んだ。30分も居たか、勘定の段になって“静”ママが「1万2千円」と言い放ったのに“社長”は何も言わず支払って店を出た。戸口で一人飲んでいた若者の酎ハイのジョッキを持つ手が一瞬止まった、いくらなんでも高すぎるだろう…若い頃のツケを払わされているとのことだったが、微妙な金額ではある。